

**〔解説〕 特集/ワークプレイスプロダクティビティ
知的生産性研究の展望**

村上周三

空気調和・衛生工学 81 1(平 19 1) pp 3~8

社会の成熟化や企業の業務形態の変化に伴って、従来とは異なる室内環境の質(IEQ: Indoor Environment Quality)が求められることが多くなりつつある。このような状況のもとで、“執務空間の知的生産性(Workplace Productivity)”という研究テーマが世界的に話題になっている。

本稿では、空調産業の現状を踏まえて、“知的生産性”の側面からこの分野が今後研究すべき方向について解説する。

**〔解説〕 特集/ワークプレイスプロダクティビティ
オフィス家具とプロダクティビティ**

坂巻裕一

空気調和・衛生工学 81 1(平 19 1) pp 21~27

プロダクティビティとは、ヒトが違い(モノ、コト)を生み出すことである。オフィス家具とは、その違いを生み出すために、場所や時間に縛られないスペース・スタイルを構成することによって、また、ワーカーを支援するツール(IT)を構成することによって、コミュニケーションを活性化するシステムである。

**〔解説〕 特集/ワークプレイスプロダクティビティ
室内温熱環境における知的生産性評価**

田辺新一・西原直枝

空気調和・衛生工学 81 1(平 19 1) pp 9~14

建物オーナーや企業経営者に、室内環境質の改善が知的生産性の向上につながることを定量的に示すことができれば、室内環境質改善を促す大きな推進力となると考えられる。本報では、室内環境質が知的生産性に与える影響について、海外での研究動向とともに、その評価手法について解説する。また、室内環境質のうち、温熱環境に着目し、室内温熱環境の知的生産性に与える影響について、これまで行ってきた被験者実験とオフィス実測の研究成果について紹介する。

**〔解説〕 特集/ワークプレイスプロダクティビティ
プロダクティビティ評価指標とオフィス照明環境**

大林史明・寺野真明・下田 宏・吉川榮和

空気調和・衛生工学 81 1(平 19 1) pp 29~38

オフィスや公共施設など、多くの人が1日のうちの大半の時間を過ごすスペースでの健康、快適性への取組みは、トータルQOL(Quality of Life)の視点からは非常に重要であり、“ひとにやさしい”技術がオフィスなどに広く導入される訴求力が求められている。そのため、“健康”、“快適”というエンドユーザー側の指標を、その費用対効果の明確化という経営側の指標でとらえなおす仕組みが求められている。

本稿では、健康・快適性技術の導入によるオフィスワーカーの生産性向上度を評価するオフィスプロダクティビティ指標とその客観・定量評価技術、およびプロダクティビティ・ソリューションとしての照明制御について紹介する。

**〔解説〕 特集/ワークプレイスプロダクティビティ
ワークプレイスのプロダクティビティ**

— 睡眠と知的生産性 —

梶井宏修

空気調和・衛生工学 81 1(平 19 1) pp .15~20

眠りは覚せい時の行動を支え、身体の成長、修復、調整、さらに学習能率に影響する。本人が一生懸命に努力をしても、眠くなると能率が低下し、エラーが多くなることは知られている。眠りの質が不十分なら心理的にも不安定な状態が続く。ワークプレイスでは、覚せいレベルを高くすること、認知反応を速やかにすること、反応時間の短縮をすること、的確な判断をすることが重要である。睡眠の質や量を確保することや疲労回復を向上させることが、能率を向上させることになる。

ここでは、記憶や学習などの認知活動の効率と眠りにかわる実証的な研究を示した。

**〔解説〕 特集/ワークプレイスプロダクティビティ
ワークプレイスプロダクティビティ 日本での動向
(その1)**

杉浦敏浩

空気調和・衛生工学 81 1(平 19 1) pp 39~44

プロダクティビティ、あるいは知的生産性という言葉や概念とともにその動向が注目を集めるようになった。ここでは、日本での動向(その1)と題して、プロダクティビティの評価手法に関連するプロダクティビティ概念の考え方・プロダクティビティ評価指標の提案・評価票の作成と提案など、筆者らが行ってきた主観的評価法を中心とした検討内容を紹介する。また、同評価票を用いて行った評価事例として、評価手順・評価方法の一例を提示する。

〔解説〕 特集/ワークプレイスプロダクティビティ
ワークプレイスプロダクティビティ 日本での動向
(その2)

～T社本店社屋におけるプロダクティビティの継続的
評価～

高井啓明・白鳥泰宏

空気調和・衛生工学 81 1(平 19 1) pp.45～49

光庭を持ち直天井の特徴を持つT社ビルのオフィス
ワーカーを対象に、旧社屋から新社屋、さらに新社屋では
3回にわたり、継続的に主観的評価法によるワークプレイ
スプロダクティビティの調査と環境改善活動を行った。合
わせて他事例と不満足者率の比較を行った。

SHASE-S (スタンダード)

SHASE-S 115-2002

室内換気効率の現場測定法・同解説

目次

目的/適用範囲/用語/規準化居住域濃度/対象空間
と測定法の適用/測定機器および周辺装置/定常濃度
に規準化居住域濃度の算出法/空気齢に基づく規準化
居住域濃度の算出法

価格1,596円(税込) 会員価格1,436円(税込) 送料350円

複写される方へ

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません。(社外頒布用の複写は許諾が必要です。)

権利委託先:(中法)学術著作権協会

〒107 0052 東京都港区赤坂9 6 41 乃木阪ビル

電話(03)3475 5618 FAX(03)3475 5619 E mail:info@jaacc.jp

なお、著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、直接発行団体へご連絡ください。

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone:1 978 750 8400 FAX:1 978 646 8600

Notice for Photocopying

If you wish to photocopy any work of this publication, you have to get permission from the following organization to which licensing of copyright clearance is delegated by the copyright owner.

All users except those in USA

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc.(JAACC)

6 41 Akasaka 9 chome, Minato ku, Tokyo 107 0052 Japan

Phone:81 3 3475 5618 FAX:81 3 3475 5619 E mail:info@jaacc.jp

Users in USA

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone:1 978 750 8400 FAX:1 978 646 8600